第4回高岡市男女平等推進市民委員会 会議記録要旨

1 日 時 平成19年8月1日(水) 10:00 ~ 12:05

2 場 所 高岡市役所本庁舎3階 庁議室

3 出席者

- ・委員 16名 (大石会長、辻副会長、穴田委員、尾崎委員、川田委員、小間委員、谷口委員、道具委員、日尾委員、久湊委員、開委員、向委員、村上委員、梁瀬委員、山下委員、吉村委員)
- ・事務局 7名 (岩坪経営企画部長、西淵経営企画部次長、塚原男女平等・共同参画課長、野村男女平等推進センター所長、亀谷主幹、能登主査、宮島主事)
- ・その他 傍聴者1名

4 内 容

- (1)あいさつ
- (2)起草委員会の開催報告について
- (3)男女平等推進プラン(基本計画)素案について
- (4)キャッチフレーズの選定について
- (5)現在の男女平等推進プランにおける事業計画の推進状況報告について

【配付資料】

- ・資料1 高岡市男女平等推進プラン(基本計画)素案
- ・資料2 男女平等推進プラン事業計画の推進状況(平成18年度具体的施策の取組状況)

- ・所属団体の役員改選等に伴う新任委員の紹介、人事異動に伴う職員の紹介。
- ・傍聴希望者(1名)の傍聴承認。

(1)あいさつ

経営企画部長

本日は、起草委員会で作成された基本計画の素案についてご審議いただき、中間報告的に取りまとめいただくとともに、この後、市議会の方にもご意見をいただき、その結果をまとめ市民意見をお聞きしたいと考えている。

今後、委員の皆様には、市民意見等により調整を加えた基本計画と事業計画を合わせ、最終的に取りまとめいただくことになるので、よろしく願いしたい。

大石会長

本日の会議では、男女平等推進プランの基本計画の素案の内容の報告を受け、市民委員会として

中間的に取りまとめたい。今後、市役所やホームページで公表し、市民の皆様の意見もお聞きし、事業計画も合わせて最終的な審議をして取りまとめたい。

(2) 起草委員会の開催報告について

辻副会長 起草委員会については、平成19年3月から4月にかけて、計3回開催した。

委員長・副委員長の互選後、検討、協議を行った主な事項は次の3点。

1点目は、第3回市民委員会において付託された「基本理念と体系案の検討」について。

2点目は、「基本的な考え方」「基本目標・重点課題及び施策の方向」の文章の検討とキャッチフレーズを3案に絞ったこと。

3点目は、計画の章構成で、旧プランと同じように、事業計画に1つの章を設け、最後に年表や女子差別撤廃条約等の資料を付ける構成としたこと。

素案作成で留意した点については、次の3点。

1点目は、旧市町のプランの趣旨や背景等について、尊重することを基本としたこと。

2点目は、作業にあたって、素案の施策の方向や理念を、旧市町のプランの項目ごとに対比させ、統合、整合を図るとともに、それぞれ充実している部分を反映させ、できるだけ旧プランの文章をベースにして、引き継ぐこととしたこと。

3点目は、条例、国・県の2次計画、市の総合計画をはじめ他の計画等との整合を図るとともに、市の意識実態調査やタウンミーティングの意見と、市から市民委員会を通じ、起草委員会に検討依頼があった、高岡女性の会連絡会ほか2市民団体からの要望書の内容等についても検討・協議を行ったこと。

(3) 男女平等推進プラン（基本計画）素案について

・事務局より説明（資料1）。

委員 農業委員の女性比率と農協組織への働きかけは、一緒に考えるべきではない。「農協組織」を「農業団体等」としてはどうか。また、農協個人正組合員の「要件を見直す」を「女性の加入を促進する」としてはどうか（資料1・P25）

事務局 ご指摘の通り改めたい。

委員 「施策の方向」において「働きかけます」とした場合、担当課（男女平等・共同参画課）から働きかける考えか。

「障害者」、「子ども」の表記については、国等の例にとらわれず、高岡の考え方を示していけばよいのでは。

事務局 所管するそれぞれの部署で担当する（働きかける）。

事務局 「施策の方向」（基本計画）については、基本的な取り組みの方向性を示すにとどめ、誰が担うかについては、事業計画に引き継ぎたい。

事務局 「障害者」の表記については、担当課から市の条例や計画に合わせたもの（現行のまま）としたいという意見があった。

委員 説明が必要な難しい用語（「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」等）はあえて使用せず、一般市民レベルで分かるようにしてはどうか。

- 委員 プランについては、巻末の語句説明を充実させ、広く配布するパンフレット類について用語の使用を工夫すべき。
- 委員 「学校教育における・・・過度の飲酒」とあるが、学校教育で過度の飲酒への対策を推進すると読める（資料1・P42）。
- 事務局 誤解のないよう改めたい。
- 委員 みだしが「配偶者等に対する暴力」で、本文は「ドメスティック・バイオレンス」となっている。統一してはどうか（資料1・P13）。
- 委員 基本目標 で謳っている「あらゆる分野に平等に参画できる機会の確保」については、男性と女性では身体的特質が違うので無理があるのでは。
性別にとらわれない職業観について、大学生を対象に記述してあるが、職業観を養う機会は、小学校期に与えられるべき（資料1・P29）。
- 事務局 「就業体験」の中には、小・中学生を対象とした職場訪問や「14歳の挑戦」などが含まれている（資料1・P29）。
- 委員 男女共同参画（ジェンダー等）の考え方は、一般市民には分かりにくいので、基本的人権に関わる問題であることを訴えていくべき。
- 委員 性差を否定すべきではない。家庭を大事にすることを起点として男女共同参画社会があるべき。
- 委員 自治会の仕事に携わっているが、男女共同参画（「あらゆる分野に平等に参画できる機会の確保」）の考え方が自治会の末端まで浸透していない。
- 委員 （男女平等・共同参画の推進には）次世代に繋げていけるよう、男女（夫婦）が共に手を携えていくような家庭での子育てが大事である。教育や介護等、あらゆる分野における施策の中で少しでも前進していけばよいと思う。
- 大石会長 今回ご審議いただいた素案についての変更は、日程等の関係もあるので書面により委員の皆様にお伺いすることとしたい。

(4) キャッチフレーズの選定について

- 委員 表記について、「認めあい」と「支えあい」の間など、各文節・単語ごとに半角スペース（間隔）を空けてはどうか。
- 委員 言い易い（口ずさみ易い）ものがよい。
- 委員 どの自治体のプランが分かるし、PRにもなるので、地名（高岡）を入れた方がよいのでは。
- 委員 「認めあい」「支えあい」の順がよい。
- ・選定については、会長に一任することとなり、「認めあい 支えあい 共に輝くひととまち」とした。

(5) 現在の男女平等推進プランにおける事業計画の推進状況報告について

- ・事務局より説明（資料2）